



2008.05.20 No.5

本号は、第1期生10名の卒業特集です。JNFEAにとって初めての卒業生を送り出すことになりました。喜ばしいかぎりです。彼女らの成長とこれからの決意をこの特集のなかから酌んでいただければと存じます。彼女らは、故郷に帰り、2年間の教育の成果と培った経験を地元の子供達に伝え、教えます。この間、里親をはじめ、皆さんの弛まない励まし、援助に感謝するとともに、今後とも彼女らを見守って下さい。(本号作成では、清水・磯各理事にお世話になった。また、ネパール語版もご覧下さい)

「さくら寮」第1期卒業生へ

山下 泰子(NPO法人日本ネパール女性教育協会理事長)



10人の第1期生の皆さん、ご卒業まことにおめでとうございます。皆さんは、2006年8月6日、700人ものあたたかな歓迎をうけて「さくら寮」に入寮されました。あの日のことは、皆さんの一生の思い出になることでしょう。私たちも、あの日の新入生代表・ラミラ・ブツダの誓いのことばの迫力を感動とともにいつも思い出しています。フルバリ・ホテルで開催されたソプラノコンサートの中澤桂さんの美しい歌声もきっとよく覚えていることでしょう。

あれから2年近い年月が流れました。皆さんにとって、この「さくら寮」の日々はいかがでしたか？ 苦手になっていた英語は上達しましたか？ 日本の先生たちの算数、パネルシアター、体育の特別授業はいかがでしたか？ ネイティブによる英語のレッスンはどうでしたか？ ピアニカ、裁縫セット、えんぴつ、算数セットは、日本の学校関係者や皆さんからのプレゼントでした。新入生用の文房具は、アメリカの大学からの贈り物でした。もちろん、皆さんへの奨学金は日本の里親からのご寄付でまかなわれています。こうして、「さくら寮」の2年間には、たくさんの人々の善意がいっぱい詰まっていたのです。

私は、この3月、バジャンやバグルンの小学校を訪問しました。そして、ご家族ばかりでなく、どんなに村の皆さんが、「さくら寮」から巣立つ「おなご先生」の着任を待っているかを痛いほど肌と感じました。

皆さんは、一人ひとり、苦勞しながら学校教育を受けた人たちです。ある人は、6歳になっても学校を行かせてもらえませんでした。ある人は、自分で河原の石を割ったお金で学校に通いました。どの村にも貧しい現実があること、皆さんが、バス停から4時間も5時間も歩かなければならない交通の不便なところから来ていることもよくわかりました。

でも、そうした皆さんだからこそ、村に学校に行っていない少女がいれば、学校にくるように説得してくれるに違いありません。あの『二十四の瞳』の大石先生のように一人ひとりの生徒を大切にする先生になってくださると私たちは確信しています。日本ネパール女性教育協会は、カニヤ・キャンパス・ポカラと協力して、この2年間、里親の皆さんとともに、「さくら寮」の皆さんにできるだけのことをしてまいりました。カトマンドゥへの修学旅行は、遠隔地に帰る皆さんへの私たちからの卒業祝いのプレゼントでした。遠くの村へ帰る前に首都を見学したことは、きっとよい勉強になったことでしょう。

皆さん、カニヤ・キャンパス・ポカラ「さくら寮」で学んだことを誇りに、村の少女たちのロールモデルになるような「おなご先生」になってください。そして、毎年1回は、ポカラに帰って、皆さんの経験を語り合い、研修をうけてください。とりわけ、みなさんは、第1期生です。後輩の模範になるすばらしい先生になってください。私たちは、皆さんならそれが出来ると確信しています。

また、会う日まで、皆さんのご活躍をお祈りして、はなむけのことばといたします。

小さいが美しいプロジェクト

スレンドラ バハドール バリジュ(カニヤ・キャンパス・ポカラ校長)



極西部と中西部の二つの遠隔地で低いカーストまたは発展の遅れているカーストを含めた女子学生達が自分の地域でフィーダーホステルに住んでSLCに合格しています。カニヤ・キャンパス・ポカラが運営しているさくら女子寮プロジェクトはそうした女子学生達を有能な小学校教師となる訓練を受けるために貴重な機会を与えました。このプロジェクトは一方で質の高い教育をそのような女子学生の手が届くようにさせ、他方では自身の郷里の小学校で3年間教師の職を与えます。二つの目標があります。一つ目は遠方の地域に訓練を受けた有能な小学校の先生達を作ることです。そして二つ目は彼女らの役割として効果的にその地域の女子教育の発展を支える責任を持たせることです。このプロジェクトから

毎年10名の女子学生が遠隔地に帰り3年間小学校で教えます。プロジェクトの投資はその訓練を受けた小学校の教師に3年間給料を保証します。また、その地域も訓練を受けた有能な先生達から奉仕を受けます。

今の所10年間と決めたこの寮のプロジェクトは友好国日本にあるJapan Nepal Female Education Association(JNFEA)と言う名前のNGOとカニヤ・キャンパス・ポカラが協力して動いています。友好国日本政府を含め、他の組織と人々の有償無償の支えでこのプロジェクトは成り立っています。これは「小さいが美しいプロジェクト」だと私は思います。このプロジェクトから直接に利益を得ている女子学生達が未来に自分の足で立つ力を得て、自分の地域の発展のためにリーダーシップを持つことが出来るように願っています。

卒業生の抱負

氏名・赴任先学校（所在地 地図を参照）

リンク グルン Shree Buddha Secondary School (Gorkha)



Rinku Ghale

ネパール女性教育協会(JNFEA)の協力で遠隔地に生まれてもポカラのような所で勉強する機会を私は与えられました。家族に心からお礼を申し上げます。この寮で2年間住んで私はいっぱい勉強と質の高い教育も受けました。グループと一緒に仕事をする習慣をのびし、共に人の悲しみや喜びに共感し、互いに助け合う気持ちも出来たのはこの2年間の寮のお陰でした。また、ネパール女性教育協会(JNFEA)が与えてくれた色々な訓練から自分自身が色々な事を理解するようになったと感じています。将来、一人の良い先生になる機会をあたえられたと共に、自分の村に帰っての教育が大事だと気づかせくれ、そして自分自身が先生になって行く学校で子供達皆に自分が出せる質の高い教育を与えたいと思います。

ブルダニ ガレ Shree Buddha Secondary School (Gorkha)



Purdhani Ghale

遠い所に生まれても日本ネパール女性教育協会(JNFEA)の協力で、ポカラのようなきれいな街で、私達は高等教育を得られる貴重なチャンスを得ました。日本ネパール女性協会(JNFEA)にお礼申し上げます。さくら寮の2年間の生活で私は色々な事を習う機会を貰いました。そのお陰で私はグループで、どういう仕事をするか、規則の中において仕事をしたらどのように簡単に、自分の目標まで行けるかという知識も得ました。また、お互い助け合う気持ちをのびすことが出来ました。

私達の国ネパールは未だに貧しく、教育という光が誰にも当たるように、私は自分の人生の全部を教育の仕事場で一人の良い先生の役割を果たし、村の子供達みんなに読み書きが出来るようにするのが私の目標です。

サララ マジ Shree Chaughan Primary School (Doti)



Sarala Majhi

初めに地理的、経済的にとても遅れている私達に、日本ネパール女性教育協会(JNFEA)が、このようなさくら寮に住んで、2年間キャンパスで学ぶことと、3年間自分の村の小学校で教えるチャンスを与えて下さり、心から JNFEA に感謝申し上げます。この小さいが美しいプロジェクトによって社会生活、友好的な気持ち、助け合いの気持ち、グループでの仕事など精神的な経験を積む機会を貰いました。

私の願望は小学校の先生として教えると共に、5,6歳の子供達に学校に来る勇氣をつけると同時に、彼らに学校の楽しい環境を与える為に、自分が出せる努力をして、学校を一つの庭のように作ります。だから子供達は家よりも学校で楽しく過ごすことが出来ます。

アマリタ シャルマ Shree Ganesh Lower Secondary School (Baglung)



Amrita Sharma

社会生活は親しみのある気持ち、人助けの気持ちなど精神的な気持ちを集めることだこの寮で学びました。この寮で人の悲しみに泣き、人の喜びに笑う気持ちも学んだと思います。ホームシックで気持ちが上下したけれども、寮のみんなの助け合いで精神が否定的より肯定的な方向に向かって押し上げられていきました。

私の願いは子供達に教えると共に3,4歳の子供達が学校へ来るように習慣をつけ、学校に楽しい環境を作るため幼稚園を用意します。特別に切望していることは身体障害者、子供達の権利福祉の為に仕事をします。身体障害者には好意だけでなくチャンスを与えなければならないと言うスローガンと一致させる教育を前進させて行きたいです。

ラミラ ブッダ Shree Bal Mandir Secondary School (Bajhang)



Ramila Budha

人生というのは色々な経験の集まりです。どこかでいっぱい経験を集めて生きて行く事を習わなければなりません。私はさくら寮の中で色々な経験を集める機会を貰いました。その経験で人生を正しい道に生かせる事が出来ると望んでいます。2年間寮で過ごし勉強し友達と一緒に仕事をして自分の個人的な喜び悲しみをお互いに交換した生活はとても短く時間後ろから押されているように感じました。静かな環境と先生から貰った愛と勇気づけでいやな時間はありませんでした。

目をつぶったら私の村がアメリカの一つの部分のように見えます。その目を開けると迷信、悪い習慣などに占められたような一つの小さな地域が見えます。そのような所に私は行って一人の良い先生になって新しい知識を人に与えよう。社会と社会の一人ひとりの悩みに肯定的な考え方の種を植えよう。教育の光が当たらない子供達のために、学校へ行かせる環境を作る事が出来るようにしよう。

マヤ ロカヤ Shree Malika Higher Secondary School (Bajura)



Maya Rokaya

さくら寮に住んだ期間、そこで私達は決まっている規則を守り、自分の職務に前向きに進まなければ成らないということを教わりました。そこで過ごした全ての日々は忘れられないです。2年間の日々に色々な必要なことを得るチャンスを私は貰いました。私は一番これに満足しています。このようなチャンスが私の人生に何度も来てほしいです。そして最後にここに来られた新しい寮生達(妹達)に何を言いたいかというと、この小さいが美しいプロジェクトの評価を保つように前に進んで下さい。

私の望みというのは、自分の村に帰って一人の良い先生になって教える事と、教育がない子供達に学校に来るように引き付ける事です。特に貧しい孤児と低いカーストの子供達に多くの機会を与えて、彼らを読み書きの出来る人にする事です。

スニタ ギャワリ Shree Gyan Jyoti Primary School (Guli)



Sunita Gyawali

この寮に住む機会を得た後、私の人生の道は変わったと思います。色々な県から来た友達と一緒に家族のように住み、そしてグループで暮らし、仕事をして互いに助け合い成長しました。決まっている時間と規則の中において自分がどのような仕事をせねばならないかという事を学びました。同時に自分が出来ないことも、友達と一緒に討論して問題解決の道をこの寮の暮らしで勉強しました。また、私の自信と競争する気持も成長しました。

小学校の先生になったら私の願いは、遠くの村に住み教育の無い家庭の子供たちを学校へ来させると共に、彼らを助ける教育の環境を作って教育に熱心にさせます。重要なことは、低カーストの地区の人達は学校で勉強する事に気づいていません。その地区の中の生徒達、保護者達の家に行き、保護者に子供達の家事労働の負担を減らすように忠告したいです。そして同時に、それら生徒達に勉強をするよう仕向け、勉強に引き付ける努力を払っていきたいと思います。

サムジャナ サール Shree Prathamik Vidhalaya (Palpa)



Samghana Saru

私はこの寮に入る前に思っていた事と全然違った環境を得ました。人生のためすばらしい話や勉強の機会を得たと今、私は感じています。勉強を初めなんでもする時、色々な県から来た私達は相互に助け合い、話し合いながら仕事を達成する習慣になりました。肯定的な競争の気持、自分より上の人々を尊敬するヒント、自分より下の人々を愛しながら、規則と規律を守る習慣をつける機会も、私はこの寮で手に入れました。自分を含め信じる事、考える事も成長出来ました。

小学校の先生というのは第一に勉強のため適切な環境を作り出し、そして質の高い教育を与える事です。村々にいる貧しい、教育のない親達は家の仕事の負担などの理由で子供達を学校に行かせない、行かせても途中で止めさせてしまう人々は多いです。私はその子供達を訪問し、彼等に学校を思い出させ、判らせる助言者になり、子供達を学校へ来るように励まします。

シタ ギミレ Shree Madhyamik Vidhalaya, Jhanda Madhuli (Kapilvastu)



Sita Kumari Ghimire

さくら寮に住んでここで暮らした私達は、色々な事を教えられました。ここで色々な所の生活、文化と経験をお互いに交換すると共に、グループで助け合って仕事をする気持を成長させ、いつもルールと規則に従って時間通り仕事をする事が出来ました。

土台で家の丈夫さが決まります。木の丈夫さが根で決まると同じように一人の能力のある人を作る土台は、初等教育です。先生は大きな願望を持たなければなりません。先生に自分の職務に大きな願望や願望がないその時、先生は学校に行ってもその教育の評価を決める事は出来ません。そのため先生が自分の仕事に、強い信念と同時に自分が何をやる事が出来るのかと、いつも自分の目標に注意深くならなければなりません。

サンタ カナル Shree Siddhratha Lower Secondary School (Kapilbastu)



Shanta Khanal

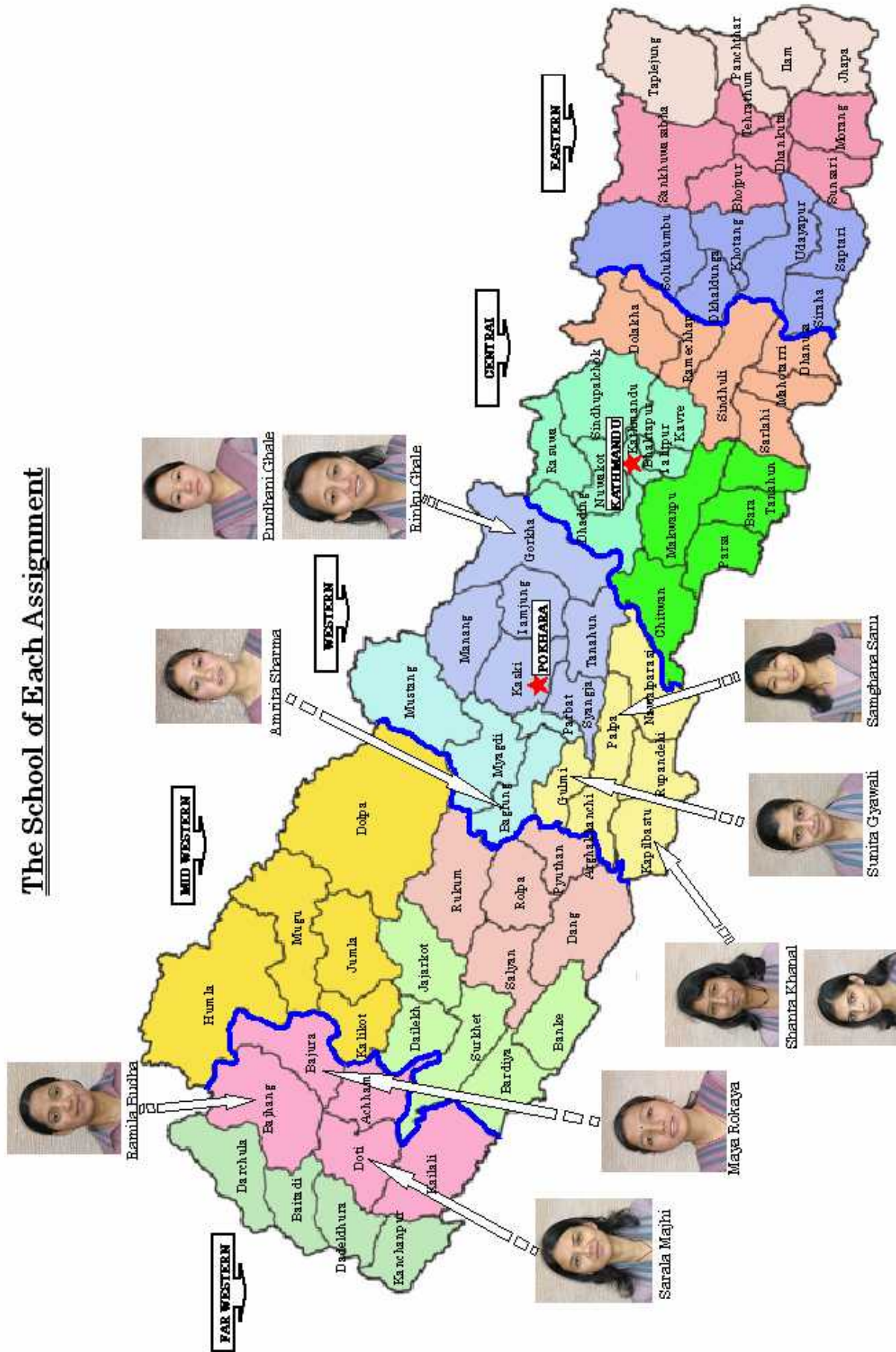
このさくら寮の主な目的と願いとはなにか。私がここで得た事ははっきりしています。それが何かと言うと良き教師になるための勉強をすることです。寮では皆と一緒に住んでとても楽しく、周りの環境も静かだった。長い間友達と一緒に生活はとても良かった。

一人の先生になる私が教育というものを説明すると、本当に教育とは国家の発展の重要な基本です。国のバックボーンです。そして知識発展のための第一歩です。教育によって人間は自分の家族、国家の為に役立つことができます。私は一人の小学校の先生がするように小さな芽のような子供達に肥料を与え、かわいがって花や実をつけさせる、そうした良い国民を作らなければならないと希求しています。



卒業生全員の記念撮影（キャンパス前にて）

The School of Each Assignment



ご卒業おめでとうございます

友松史子(Supervisor)



皆が寮に着いたときの表情を今でもよく覚えています。あどけない顔に不安げな表情を浮かべていました。あれから2年のポカラでの学生生活で、心も体も大きく成長したことを頼もしく感じています。

ネパールのさまざまな土地の出身の皆さんにとって、ポカラ・さくら寮という場所は、自らのライフスキルを深める場所となったことはさることながら、さまざまな土地との出会いが交じわる点となりました。

寮は、一つの運命共同体です。多様な土地が交わる運命共同体で、2年間、喜怒哀楽を共にし、分かち合ってきたことは、多感な青春時代をさくら寮で過ごした皆さんにとって、一生の心の糧になるでしょう。

いつもずっと一緒に過ごしてきたので、これからもずっと一緒に暮らせるのだと、錯覚してしまいますが、とうとう交差点から各々の道へと踏み出す日がきましたね。

ポカラで培ったことを胸に、赴任先の学校で、いつも笑顔を忘れず、子どもの成長を慈しんでください。

また、社会で働く女性として、自己を見失わず、仕事も家事も軽やかにこなすスマートな女性になってください。そして、これからも一人の女性として、自分を磨き続けてください。場所が変わっても、時間が流れても、私のあなたたちへの愛情は変わりません。

ではまた会う日まで

すべての人の幸せのため

大木章次郎神父(現地ポカラ理事会理事)



皆さん お一人お一人と接する機会はありませんでしたが、ミス史子を通じていつも情報を伺って、幸せな将来を切り開いて行かれる歩みを頼もしくうれしく思っておりました。これからのお仕事は 大変だとお考えでしょうが、実は私も 広島の前原爆の後 何も無いところで新しい人生を歩み始める人々をたくさん見てきました。そして私もその中の一人でした。そのやさしくない日々の中でも、やればできるのだということを経験してきました。できないのは 努力しないのだということもわかってきました。一人でできないことはたくさんありますが、チームワークとして一緒に働く方々と力をあわせれば、期待以上の成果があると信じています。

これから皆さんの働く場所に帰られ、いつも明るい希望を持ち、職場の皆さんと力を合わせて、お進みください。自分の幸せ、家族の幸せなどだけを望むのではなく、すべての人々、特に教え子たちとその家族の幸せのために 何ができるか、何をしなければならぬかということを考え、ベストを尽くす先生になってください。

先生の仕事は、本当に素晴らしい献身の仕事だと信じて、私も今まで過ごして参りました。どうぞお幸せに。

おかえし（お返し）

シスター 川岡 俊子(現地ポカラ「さくら寮」運営委員会委員)



さくら寮で過ごした2年間には色々なことがあったでしょう。嬉しかったこと、びっくりしたこと、困ったこと、楽しかったこと、苦しかったことなど。今、皆さんは沢山の思い出を心に抱いて、カンニャキャンパスとさくら寮にお別れしようとしています。

皆さんを助け、支えて下さった山下先生をはじめ日本の恩人方、毎日の生活で皆さんのお世話をしてくださったスレンドラ・バリジュー校長先生、スーパーバイザーの史子さんとワーデンの方々を思い出しましょう。この方々は皆さんから何かを返してもらいたくて皆さんを助けて下さったのではありません。

皆さんはそれぞれの村に帰ってよい仕事をして下さい。子供達を心から愛して良い先生になって下さい。このことを恩人方が望んでおられることであり、この2年間あなた方が受けたことへのお返しになるのです。

卒業おめでとう

佐伯律子(里親担当理事)

「さくら寮第一期生」10名の皆様、ご卒業おめでとうございます。

さくら寮での2年間、さまざまな体験や、楽しいこと、あるいはちょっと悲しいことなどいろいろあったことと思いますが、今はすべて懐かしい思い出となりましたね。その思い出を胸に、それぞれご自分の村に帰って「村の子どもたちの教育」のための新たな第一歩を踏み出そうとしているみなさん、これからが本番！慣れないことで困難な状況にも直面するかもしれません。でもあなたたちが学んだことを子どもたちに伝えることは、子どもたちにとって「いつか先生のようにになりたい！」と未来への希望を与えることでもあるのです。「先生」という仕事に誇りをもって頑張ってくださいね。私たち里親は先生になった皆さんの心の支えにもなれるようにもっと身近な形で交流をはかっていきたいと考えています。応援していますよ！

卒業おめでとう

竹田智恵子(里親)

ご卒業おめでとう。この2年間あなたはベストを尽くしましたね。ご両親様もお喜びのこととございましょう。あなた方が素晴らしい先生になられることを想像すると、私は胸がわくわくします。

先日あなたたちは私にネパール語やネパールの歌とダンスを教えてくださいましたね。とても熱心にそして楽しく教えてくださいました。そのとき私はあなた方が良い先生になるだろうと確信しました。私はあなたがあなたの故郷で素敵な先生になられる事を信じています。

私は5年前にネパールのチトワンに行きました。そしてそこで、1人の少女に出会いました。彼女はとても貧しく学校にも行っていませんでした。彼女は悲しそうに私を見ていました。私は彼女の目を忘れる事が出来ませんでした。そのとき私は教育が彼女を貧しさから救う方法のひとつだと思いました。

JNFEAのこのプロジェクトは、長い間私が探していたものです。山下先生が私にこのプロジェクトを知るチャンスを与えてくださった事に感謝しております。

スーパーバイザーの友松史子さん、寮母のアンジュさん、あなた方は生徒たちを素晴らしい先生そして女性に育て上げてくださいました。有難うございました。

あなた方が教師として働いている姿を見たいですね。どうぞお手紙をくださいね。ベストをつくしてください！ 幸運をお祈りしています！

もう一度、皆さんご卒業おめでとう！

(竹田さんは2008年3月18~26日さくら寮に8日間滞在し、寮生と一緒に料理したり、掃除をしたり、裁縫を教えたりして生活を共にし、寮生と楽しく過ごしました。)

ありがとう！ 友松スーパーバイザー

友松史子スーパーバイザーの任期が6月30日で終わることになります。2年間言葉や習慣、文化、考え方の違う国で、JNFEAのプロジェクトを軌道に乗せる為、よく頑張ってくれました。

彼女は、2年前、JNFEA関係者の大きな期待を背負ってさくら寮のスーパーバイザーとして赴任しました。その時はまだ寮は部分的に建設中でした。現地の事情との乖離の中、JNFEAとの中に立って完成までにいろんな苦労をしたと思います。何度か風土病にも罹り、入院もしましたが持ち前の強い意思で様々な状況をも乗り越えてくれました。

学生の生活指導・学習指導、特に英語の指導には熱心に取り組んでくれました。また、寮生の清潔・整頓あるいは礼儀についても教え、来訪者には感心されました。

JNFEAとは日々の記録、会計の記録など、状況をつぶさに連絡してくれました。おかげでさくら寮の様子がよく分かりました。

今後、これらの経験を生かし、更なる飛躍をしていただきたいと切に願っています。ありがとう。

さくら寮だより

水不足解消：入居以来の水不足に見舞われてきたさくら寮ですが、昨年10月に中庭に貯水タンクを作りました。これは寮の横を流れる水路から水を引き、中水道としてトイレや洗い物用に使用するための水を貯めるタンクです。ニュースレター4号のスーパーバイ

ザーの便りにもあるとおり、ネパールは慢性的な水不足です。寮生が20人にふくらみ、水需要も2倍に膨らみましたが、この中水道が完成したおかげで、トイレのフラッシュやシャワーもどうやらスムーズにいくようになりました。飲料用以外の水はこの中水道を利用することになります。先進国タイプの生活様式をそのまま取り入れることも問題かもしれません。(新井場記)

第1期生の赴任地を訪問：これまで山下理事長をはじめとして杉浦理事ほかの理事が各地を訪問してきましたが、これはプロジェクトの趣旨を各地のリーダーホステルに説明し、熱意のある学生を募集するのが目的でした。しかし、これは昨年ジウムラ、ドルポ、ムスタン、ロルパの訪問で目的を終えました。これからは、学生が各地の小学校に赴任して、教師として働き始めるので、赴任先の調査、視察に目的を変えることになり、その第1回として、3月に理事長が極西部のバジャンと西部地域のバグルンに行ってきました。

バジャン(ラミラ・ブッダの赴任地)：3月19日寮からチャーターした乗用車で出発。極西部地域への空港のあるネパールガンジーまで10時間のドライブ。21日週1便のバジャン行きの飛行機に搭乗。今回の選挙で第1党となったマオイストのNo.2パッタライ氏と同行。バジャン空港から徒歩30分でラミラの実家に到着。22日赴任先のShree Bal Mandir Secondary Schoolを訪問。生徒数：幼稚園35人、小中学校380人の中規模学校。月給：4900ルピーと遠隔地手当1か月1230ルピー、これらが年間13か月分、4か月ごとに支給される。JNFEAがラミラの給与を3年間支給することを条件に採用確認のサインをもらった。電気はなくトイレはある。教室にあるのは、黒板、机、イスのみ。制服はなし。遠隔地ということで、女の子を就学させると月2リットルの油の支給があるとのこと。ほとんどの女の子が通学しているとのこと。帰途はたまたまパッタライ氏のチャーターした飛行機に同乗させてもらうことができ、ネパールガンジー行きのバス停まで4,5時間かかるところを3,40分で同空港に到着できて幸運でした。

バグルン(アムリタ・シャルマの赴任先)：3月25日理事長、友松スーパーバイザー、丁度さくら寮を訪

問していた里親の竹田智恵子さん、理事長の友人フィロメナ・フィシャーさんと学生のアマリタを伴って訪問。4輪駆動のジープで4時間の悪路を走破。Shree Ganesh Secondary Schoolは幼稚園から高校まである大規模校であった。コンピューター室もある。校長は女性でアマリタの恩師。教員数19人、生徒数750人。しかし、国で雇っているのは6人のみで、後はコミュニティによる雇い。したがって、アマリタはJNFEAから給料を支給する教師ということで歓迎された。月給：6,280ルピーで1年間に13か月分支給、ここも4か月ごとの支払。両箇所とも各人の就業状況の報告をお願いし、3年後は彼女らを常勤職員に登用してくれるようお願いした。

日本のODA視察団がさくら寮を訪問：2008年2月10日、日本の参議院議員5名と在ネパール日本大使館関係者合計10名がODA視察の一環として、さくら寮を訪問。さくら寮は在ネパール日本大使館から「草の根無償基金」を受けて建設。このプロジェクトの有効性や効果を検証するための視察ということです。カニヤ・キャンパスの校長パリジュウ氏および友松スーパーバイザーが対応しました。さくら寮の掃除がきれいに行き届いていること、また、寮生がしっかりしていることに感心されていたとのことでした。

教育支援（出前講座）

さくら寮生が少しでも、豊かな体験を身に付けて、自分の出身地の学校の先生として赴任してもらえたらと、教育支援を模索してまいりました。これまでの2年間での取り組みを振り返ってみますと、授業等の訪問は延べ14回を数えることになりました。これらの講座はこのプロジェクトにご賛同頂いている方々が、自発的にしていただいているものです。それぞれがご自分の費用で現地に出かけてさくら寮で実施していただいています。学生は新しい体験に目を輝かせて熱心に取り組んでいます。

2006.11 家庭科(雑巾作成)(山下泰子)

2007.03 パネルシアター実演(古宇田亮順他)

算数の授業実践の紹介(面積指導事例、ビデオによる授業紹介「東京・文京区立本郷小学校」)(岩谷栄子)

和紙工芸(ペンケース、ブローチ)(岩谷栄子)

国語(書道)の授業(深田洋子)

2007.08 教師としての教育経験・体育・理科の授業実践(西田敦子他)

2007.11 算数の授業実践(小数・分数の指導方法)(岩谷栄子)

ビデオによる算数授業紹介(東京・荒川区立汐入小学校)(岩谷栄子)

和紙工芸(ストラップ)(岩谷栄子)

2007.11 家庭科(編み物)(新井場貞子・滝田尚子)

2008.03 本の読み聞かせ授業(伊藤ゆき)

教育実習(ネパール人教師サファラ)

英語の授業(アメリカ・フィシャー)

家庭科(エプロン・小袋の作成)(竹田智恵子)

いずれも、ネパールでの実情に合わせて、さまざまな創造のきっかけになってくれることを願っての実施でした。これからも、機会を捉え、日本の教育経験を紹介していけたらと考えております。特に食育に関することなども提供できたらと思っています。みなさん、応援してください。(深田洋子・岩谷栄子)

ネパール豆知識

(1) ネパールのマオイストって何？

正式には、「ネパール共産党毛沢東主義派」といいますが、ネパールでは「マオバディ」と呼ばれる、軍隊を持った政党です。No.1は党首の通称プラチャンダ(本名プシュパ カマル・ダハール)、No.2は、政治局委員長のDr. バブラム・バットライです。バットライは、インドの学生運動に参加する中で、毛沢東主義を学び、理論派といわれますが、プラチャンダは武装闘争を主張した現実主義者です。

1990年以来、コイララ首相やネパール共産党(UML)との確執を経て、1996年2月に「人民闘争」を開始し、政府に対して40項目の要求書を提示しました。以後12年間にわたって内戦を展開してきました。12年間の内戦の中で、14,000人が亡くなり、多くの人々が村を追われました。有産階級は土地や家を奪われ、地方自治は事実上機能停止状態でした。首都圏でもバンダ(ストライキによる交通遮断)が日常化し、観光や経済的な

損失は多大なものでした。

一方で、貧民に対しては農業を手伝い、生活道路を整備するなどの利便を与えた上、ダリット（アウトカースト）の解放や人民裁判などを実施し、階層を越えた恋愛結婚を勧めるなど、社会的な制約を排除して、働き場の無い若者たちや、貧困層、社会的に評価されなかった多くの民族、女性たちの支持を得ていったのです。

（２）制憲議会議員選挙

最初は2007年6月に選挙が行われるはずでしたが、準備不足でした。次に11月に行われるはずでしたが、それも延期されました。そして、最後のチャンスだった2008年4月10日に、ようやく「制憲議会選挙」が行われました。この選挙で、マオイストは変化を求める国民の支持を得て第1党になりました。マオイストも驚くほどの大差でした。

マオイストはネパーリ कांग्रेस 党やネパール共産党（UML）やマデッシ政党に連立を呼びかけていますが、来る制憲議会の第1日目には、バブラム・バットライ首相の下で「ネパール連邦共和国」が成立し、274年続いたゴルカ王朝は終焉する予定です。そして、プラチャンダ初代大統領が誕生するのかもしれませんが。

この選挙のために国連ネパール政治ミッション（UNMIN）が設けられ、日本からも6名の自衛官が派遣されました。（伊藤ゆき記）

新しい寮母さんの紹介

2月1日から新しい寮母さんになりました。

名前：Anju Dhoju（アンジュ・ドージュ）



生年月日：1982年4月4日

出身地：ポカラ

学歴：1988～2003年 Vindhyabasini

Sec. School, Kanya Campus

04～07年 PN Campsus Bachelorlor

of Arts Sosiology 現在同大学大学院在学中

職歴：03～05年 Intaernational Academy でカウンセラー

05～06年 Annapurna Post(新聞社)で営業関係に勤務

語学：ネパール語 ヒンズー語 英語

JNFEAの活動報告

（2007年11月～2008年6月）

2007年

11月3日 山下理事長が東京学芸大学家庭科同窓会で講演

11月17～25日 岩谷事務局長がさくら寮訪問

11月17～21日 伊藤ゆき理事ジャジアルコットのフィーターホステルを訪問

11月20日 ニュースレターNo.4発行

11月28～30日 新井場・清水・高野・滝田各理事がさくら寮訪問

12月16日 ネパール訪問報告会

2008年

1月13日 さくら寮支援室会議

1月17日 学生会、規約の見直しミーティング、第5期第5回理事会および懇親会（東京ガーデンパレス）

2月16日 山下理事長が日本女子大附属中学校国際理解教室の講師

2月18日 レストラン「ハーモニー」訪問、岩谷・石川・佐伯各理事

2月23日 升本基金報告会（岩谷事務局長報告、山下理事長・新井場・宮坂・佐伯各理事出席）

2月28日 教育支援会議

2月29日 さくら寮支援室会議、レストラン「ハーモニー」訪問、石川・佐伯各理事、写真およびポスター持参

3月3日 総務部会

3月9～14日 伊藤理事とS.ラジバンダリ氏がさくら寮訪問

3月14日 リベラルタイムス社取材（新井場理事、岩谷事務局長）

3月18～29日 山下理事長、Dr.Philomena Fischer（プリンストン大学）、里親の竹田智恵子氏がさくら寮訪問、山下理事長1期生の赴任先バジャン及びバクルン小学校を訪問

3月27日 さくら寮支援室会議

4月5日 教育支援会議、第6期第1回理事会

5月19日～6月3日 岩谷・新井場各理事が修学旅行付き添い及び卒業式典の準備のためネパールへ

5月27日～6月3日 卒業式スタディーツアー（予定）（5月29日 さくら寮で卒業式に参列）山下理事長、山下威士理事同行、卒業式典参列

5月29日 第1期生の卒業式

6月8日 日本ネパール女性教育協会2008年度総会